

埼玉 前期募集 英語 出題傾向と対策

昨年度の出題傾向の分析

今年度から満点が 40 点から 100 点に変更されました。大問によっては配点の比重が変わりました。具体的には、

リスニング:32.5%→28% 読解総合:50%→64%
和文英訳:7.5%→0% 条件英作文 10%→8%

と、読解総合の割合が増えて他の割合は減りました。特に短めの読解問題が大問 1 問分増えていることと、今まで問 4 で出題されていた 3 つの日本語を 2 つの英文で表現する問題がなくなったことの 2 点が大きな変化と言えます。

問 1 はリスニング問題です。昨年度と比べて問題数が 2 問少なくなっています。問 2 は新傾向の問題です。短めの文章の読解問題で内容の理解を問う問題ばかりですが、文法の知識を問う語形変化問題が 1 問出題されています。問 3 は会話文の読解問題ですが、内容を問う問題だけでなく並べ替えや単語を書く文法問題も出題されます。また、新傾向の問題として自然な文の流れになるように 5 語以上の英語を書く問題が出題されています。読解力と英作文の力の両方が問われます。問 4 は長文読解問題です。内容を問う問題で構成されており、形式は昨年とほぼ同じです。ただ単語を記入する問題は綴りや語形変化に注意が必要です。問 5 は条件英作文です。5 文以上という条件が難易度を高くしています。

入試までに準備しておくこと

リスニング、読解、文法、英作文と総合的な力を問われる形式です。基礎知識を身につけるだけでなく、出題形式に慣れる必要があります。知識に関しては中 1 から中 3 まで偏りなく復習をしましょう。出題形式に慣れるため、過去の問題を解くことは必須です。特に記述問題は記号問題に比べて難易度が高いので、問題を解くためのポイントを意識して繰り返し練習することが必要です。意識すべきポイントとしては、日本語で答える問題では聞かれ方に対応した答え方ができているかどうか、単語を書く問題では時制・単数と複数などの語形変化までできているか、英語の質問に英語で答える問題では主語と動詞を正しくとらえられているか、時制は正しいか、条件英作文はテーマに沿った内容を思い浮かべられるか、ミスを減らすために英訳しやすい表現で文を作ることができるか、などが挙げられます。

英語 分野別出題形式			22年度	21年度	20年度
リスニング	記号	内容理解(英問英答含む)	19	9	9
	記述	英問英答			
		和問和答	9	4	4
小計			28	13	13
語彙	記号	綴り			
		語形変化			
		発音・アクセント			
小計			0	0	0
文法	記述	適語(句)選択			
		適語(句)補充			
		語順整序			
	記号	部分英作			
		完全英作			
正誤問題・誤文訂正					
小計			0	0	0
読解	記号	内容理解(英問英答含む)	15	4	2
		内容一致	4	2	2
		段落・文整序			
		段落・文・節挿入	3		
		適語(句)・文選択	4	6	2
	記述	語順整序	4	2	2
		内容理解(指示語など)			
		語形変化	3		
		空所補充	15		6
		和文英訳		3	3
		部分英作	4		
		英問英答	4	2	2
		条件英作	8	4	4
和問和答	8	4	4		
小計			72	27	27
合計点			100	40	40

埼玉 前期募集 国語 出題傾向と対策

昨年度の出題傾向の分析

今年度から40点満点が100点満点に変更されました。大問によっては配点の比重が変わっています。具体的には、

漢字:12.5%→10% 文法・語彙・敬語:10%→12%
 小説:25%→25% 論説:25%→25%
 古文:7.5%→12% 作文:20%→16%

と、古文の比重が増え、作文の比重が減りました。

小説、論説については、比重も出題形式も大きく変更はありません。小説であれば心情や場面を問う設問が、論説であれば傍線部の内容や本文全体の主旨を問う設問が多いので、日頃から上記の点を意識しながら読むようにしましょう。また、記述問題は減ったとはいえ全体の3割を占めています。

古文は、設問数が1問増え、配点の比重が高くなりました。本文は比較的平易で、「誰が何をしたのか」を把握しながら読むことが正解につながるでしょう。

作文については、「勉強する理由」についてのグラフを見て自分の考えを書くというものでした。文章または資料をもとにした作文であることも、書く際の行数・条件もともに例年と同様でした。

漢字については、書きは主に小学校範囲から、読みは中学校範囲からの出題でした。また、大問2の間3のように、文で説明されている漢字を答える設問が出題されました。文法・表現では、主語・述語の対応、敬語、助動詞の働き(同じものを選ぶ)が問われました。

入試までに準備しておくこと

どの分野でも基礎的なことが問われます。小説では登場人物の心情の変化を把握しながら、論説では段落ごとの内容を把握し、指示語や接続語に気をつけながら読む練習を重ねましょう。記述問題も多いため、ただ読むだけではなく、言葉でまとめる練習が必要です。漢字・文法・語彙では基礎的な学習を重ねましょう。古文については、基礎的な文章でよいので「誰が何をしたのか」を把握しながら読む練習を積みましょう。作文は、実際に書いてみないと上達しません。まずは過去問を解いてみるのがよいでしょう。できれば、先生にチェックをしてもらったほうがよいでしょう。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字 語彙	漢字の読み取り		6		3		3
	漢字の書き取り		4		2		2
	四字熟語・語彙		3	1		1	
文法・表現		3	3	3		2	1
敬語		3					
韻文	俳句(鑑賞文含む)						
	短歌(鑑賞文含む)						
	詩(鑑賞文含む)						
資料を含む文章							
小説	心情を問う設問	8	11	2	6	4	2
	場面を問う設問		6		2		2
	文章内容との一致問題						2
	本文との正誤問題						
論説	接続語の補充						
	傍線部の理由を問う設問				2		2
	傍線部の説明を問う設問	9	11		4		4
	本文の内容を問う設問				2		2
	本文との正誤問題	5		2			2
古文	主語を問う設問	3		1			1
	仮名づかい・語彙		3				1
	傍線部の理由を問う設問	6					
	傍線部の説明を問う設問						
	本文の内容を問う設問			2			
本文との正誤問題						1	
作文			16		8		8
合計			100		40		40

埼玉 前期募集 数学 出題傾向と対策

出題傾向の分析

大問4つの構成で問1、問2は独立小問集合形式でした。

問1は、式の計算、根号のついた数の計算、式の値、方程式、関数、立体、展開図、場合の数、数と規則性と多彩な出題でした。合計12題、配点は全体の半分の計50点でした。

問2は、規則性と平面図形の面積、関数と図形、作図からの出題で、配点は20点でした。平面図形は、扇形と直角三角形を組み合わせたものでしたが、組み合わせ方をときほぐせばすぐに面積が求められるものでした。関数では、座標を文字でおき、条件から方程式を立てる問題でした。作図は、3点を通る円の中心を見つける必要のある問題で、きちんと理解していないとできないものでした。

問3は、台形の周上を動く2点を用いた図形の問題でした。(1)は図形の面積を移動時間の関数として式に表す問題でしたが、難易度はあまり高くはありませんでした。(2)は図形から方程式をつくり解く問題でした。こちらは、できている図形の特徴に気がつかないと解くことは厳しいものでした。

問4は、縦、横の比が $1:\sqrt{2}$ の長方形の紙を折る問題でした。今年は、平面図形に加えて、(1)に空間図形も利用されました。(2)は全文筆記で、直角三角形の合同を証明する問題でした。難易度は高くはありませんでした。(3)は、 $1:\sqrt{2}$ であることを利用して、三角形JBCが直角二等辺三角形であることを導き出します。ここで悩んだ生徒が多いと思われます。

領域	内容	配点		
		22年度	21年度	20年度
数と式	数の性質・表現	15		
	数の計算	4	2	2
	式の計算	8	2	4
	平方根	4	4	2
	多項式の乗法			
	因数分解			
	小計	31	8	8
方程式	1次方程式			
	連立方程式	4	2	2
	2次方程式	4	2	2
	方程式の応用		4	2
	不等式・不等式の応用			
	小計	8	8	6
関数	比例と反比例			
	1次関数			
	2次関数	4		2
	変化の割合・変域		2	
関数と図形	直線と曲線		2	
	関数と図形	5	4	6
	小計	9	8	8
三角形・四角形	角度		4	
	作図	5	2	2
	合同	7		
	相似			2
	三角形			
	平行四辺形			
円と平面図形	円周角の定理			2
	円と弧・弦・接線			
	線分、線分比		2	4
	面積、面積比	11	4	2
	点の移動と図形	11		
空間図形	線分、線分比			
	展開図、面積、面積比	8		
	体積、体積比	6		2
	点の移動と図形			
	回転体、球			
	小計	48	12	14
確率	場合の数	4		
	確率		2	2
総合問題	数と式			
	図形			
	その他		2	2
	小計	4	4	4
	合計	100	40	40

入試までに準備しておくこと

得点が、100点満点になったことで、小問ごとの配点が一律ではなくなりましたが、出題形式に大きな変化はありません。しかし、出題内容は、各領域から幅広く出題され、また、途中の過程を記述する出題もありますので、教科書レベルの問題はきちんと解法まで示すことができるように練習をしておきましょう。出題の続いている「紙を折ること」を利用した問題は、平面図形から立体へと多少の変化も見られていますので、過去の問題はもちろんですが、数少ない他県での問題も扱って、備えておくべきでしょう。また、後半の図形などの問題に十分な時間をとるため、計算問題などは、速く正確に処理できるように練習を積んでおきましょう。

埼玉 前期募集 理科 出題傾向と対策

出題傾向の分析

大問 1 は小問集合で、地学・生物・化学・物理の各分野から 2 題ずつの出題で、基本的な知識を問うものでした。大問 2~5 は、それぞれの分野での大問形式の問題でした。配点は、満点が 100 点になったことで、小問ごとの配点は一律ではなくなりましたが、分野ごとの配点はほぼ一定となりました。

大問 2 の地学では、2009 年 7 月に起こった日食が題材として取り上げられ、太陽、地球、月の位置関係などを問われました。太陽と月が地球上からはほぼ同じ大きさに見えることの説明を記述するものがありました。

大問 3 は、血液や細胞の観察で、顕微鏡のレンズについて、細胞のつくりについての基礎知識と、ヘモグロビンの性質の記述の問題でした。さらに、実験方法の記述もありました。

大問 4 は化学分野からで、電離をイオン式を用いて表すものや化学反応式が出題されました。イオンは新指導要領で追加された内容です。また、気体の性質を使っての実験結果についての説明を記述する問題もありました。

大問 5 は、運動の様子とエネルギーの移り変わりの問題でした。物体が運動する経路を変えたときの運動の様子の違いを説明する問題が最後にありましたが、この問題にはかなりてこずったことと思われます。

分野	22年度		21年度		20年度	
	出題内容	配点	出題内容	配点	出題内容	配点
物理	回路と電流	3	音の速さ	2	磁石と磁界	2
	発電とエネルギー	3	音源の振動	2	電磁誘導	2
	重力のはたらき	3	回路図	2	電流と磁界	2
	重力の大きさ	3	回路と電流・電圧	2	運動とエネルギー	2
	運動とエネルギー	4	回路と電流	2	エネルギーの大きさ	2
	運動と速さ	4			位置エネルギー	2
	運動の説明	6				
小計		26		10		12
化学	原子の記号	3	水溶液と質量	2	気体の性質	2
	水溶液の性質	3	ろ過	2	中和	2
	電離の式	3	再結晶	2	中和と塩	2
	実験上の注意	4	化学変化のきまり	2	化学変化と物質	2
	化学反応式	3	実験上の注意	2	化学反応式	2
	質量保存の法則	4	化学反応式	2		
	電極での変化	6				
小計		26		12		10
生物	植物のはたらき	3	植物のつくり	2	対照実験	2
	動物の分類	3	植物のつくり	2	消化液とはたらき	2
	顕微鏡	3	植物のはたらき	2	消化器官	2
	細胞のつくり	3	生物のつながり	2	受精卵とその変化	2
	細胞のつくり	3	生物の生活	2	染色体の様子	2
	赤血球のはたらき	5	生物のはたらき	2	遺伝と形質	2
	実験の説明	6				
小計		26		12		12
地学	空気の流れと雲	3	前線と天気	2	初期微動継続時間	2
	地震の規模	3	気象の観測	2	地震の伝わり	2
	自転と日周運動	3	天気の変化	2	地震の規模	2
	太陽と月	5				
	太陽系	4				
	月の公転	4				
小計		22		6		6
合計		100		40		40

入試までに準備しておくこと

大問数は減りましたが、総小問数は若干増え、出題形式がこれまでと大きく変わりました。また、それぞれの分野への点数の分配も変わり、地学分野の占める割合が若干上がりました。問題の構成は変わりましたが、出題傾向などは変わりなく、問題の多くが記述で解答するもので、図を使って解答するものも出題されています。

出題は、観察や実験をもとにしたものですが、単にその結果などの知識だけではなく、目的や器具、実験の仕方や注意点までもきちんと理解しておくことが必要です。対策として、学校での実験のまとめをきちんとつくることや教科書に記載されていることがらをしっかりおさえておくことがあげられます。さらに、記述の問題に対応するために、過去の問題や他県の問題を使って十分に記述の解答練習を行っておくべきでしょう。

埼玉 前期募集 社会 出題傾向と対策

出題傾向の分析

2010年度から40点満点が、100点満点に配点に変更されましたが、点数の配分は、ここ数年とほぼ同じ比率となっています。

大問 1, 2 は地理分野からの出題です。基礎的知識が身につけていれば解答できる問題が大部分を占めています。資料を分析したうえで短文を記述する出題もあり、単なる教科書の暗記だけでは対応できない構成となっています。

大問 3, 4 は歴史分野からの出題です。こちらも地理同様、比較的平易な問題が多く、基礎的な力がしっかりとついているれば解答は容易です。しかし、大問4の問2, 条約改正に関する短文記述は難度の高い出題となっていました。

大問 5 は公民分野からの出題です。こちらも基礎的知識が試されていますが、財政政策、歳入・租税についての問題は、短文記述と正答をすべて選び出す記号選択問題となっており、難度が高くなっています。正確な知識が身につけていることが要求されています。

大問6は3分野の小問集合です。問1の京都、兵庫が日本海に面していることが盲点となっていた受験生が多いのではないのでしょうか。

入試までに準備しておくこと

全体的に基礎的知識を試す出題がほとんどです。学校の教科書に記載されている語句をしっかりと正確に覚えることで得点力は上がっていくはずですが、ただし、それだけでは資料分析・短文記述の問題に対応することはできません。重要用語の暗記だけではなく、地図・図表・グラフなども確認をするようにしましょう。また、短文記述の簡単な練習として、「○○とは、～である。」という形で語句の説明ができるように練習をしておくといでしょう。そして過去の入試問題などでこれらの問題の演習をすることで、高得点の獲得が望めるようになるでしょう。

		単元	22年度	21年度	20年度
世界地理	世界のすがた	緯線・経線			○
		時差	○		
		大陸・地形	○	○	
	気候	気候帯			
		雨温図	○		
	生活文化	生活		○	
		文化			
		人口		○	
		宗教			
		エネルギー	○		
産業		○			
各国のようす			○	○	
日本地理	農林水産業	農業		○	
		林業			
		水産業			
	工業	○	○		
	都道府県	宮崎	愛媛・宮崎	長野	
	気候	気候のようす			○
		自然			
		災害	○		
	各地の特色	○	○	○	
	地形図	○	○	○	
その他	交通・通信				
	貿易			○	
	都市問題				
歴史	原始古代	旧石器・縄文			
		弥生			
		古墳			
		飛鳥	○	○	
		奈良	○		○
	中世	平安		○	○
		鎌倉			○
		室町	○		
	近世	安土桃山	○	○	○
		江戸	○	○	○
	近代	明治	○	○	○
		大正		○	○
		昭和	○		○
	現代	戦後	○	○	○
	世界史			○	
公民	現代社会			○	○
	政治	人権			○
		憲法		○	
		選挙	○		○
		国会		○	○
		内閣	○	○	
		裁判所			
		三権分立			○
	経済	地方自治	○	○	○
		消費・流通			○
		価格・物価		○	○
		生産・企業	○		○
		金融		○	
		職業	○		
	社会保障	○		○	
財政					
国際社会			○		
配点 ()内は100点満点の換算点	地理	36	13(32.5)	13(32.5)	
	歴史	36	14(35)	15(37.5)	
	公民	28	13(32.5)	12(30)	